

ICT活用による現在の学びの姿

※教育指導課職員へのヒアリングによる

●現状

- 1人1台端末の本格運用は令和3年4月から実施。その間は段階的な運用をしていた。令和6年度から英語、数学等でデジタル教科書の本格運用開始予定となっている。

<コロナ禍での運営>

- 最初は、朝のホームルーム等で児童生徒の様子を確認することに比重が置かれていたが、その後、教員の授業を配信で見る、課題配布などで活用。進んでいる教員は、ジャムボード（ホワイトボードアプリ）で意見や考えを共有するなど活用が進展しつつある。

<小学校>

- 社会や総合的な学習の調べ学習は親和性が高く、活用しやすい。
- 図工の時間などに、それぞれの作品について「付箋アプリ」でコメントし合うなどで活用。
- 卒業文集を端末で入力。書くことが苦手な子は音声入力を活用し、作成した。

<中学校>

- 小テストをドリルのアプリで行うと、フォームに入力するとすぐにスコアが表示され、丸つけが不要となるため、効率性の観点から活用度が高い。
- 英語については、4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）全てでICTの活用が進んでいる。

<ICT支援員>

- 月1回程度各校を巡回。個別対応や研修等、各校の状況に応じて指導を行っている。

●課題

- ICTを活用している教員と、していない教員の差がはっきりしている。（年齢、階層など）
- ICTの活用が働き方改革につながると感じている人はどんどん活用するが、これまでの「自分のやり方」が確立されている人は積極的には活用しない。
- 閲覧制限等、端末の自由度が少なく、自宅のPC等を使った方がいいという傾向もあり端末の持ち帰りが進んでいない。
- 端末だけではなかなか学びが深まらない。
- オンラインだと、表情や空気などで気持ちを押し量ることが難しい。



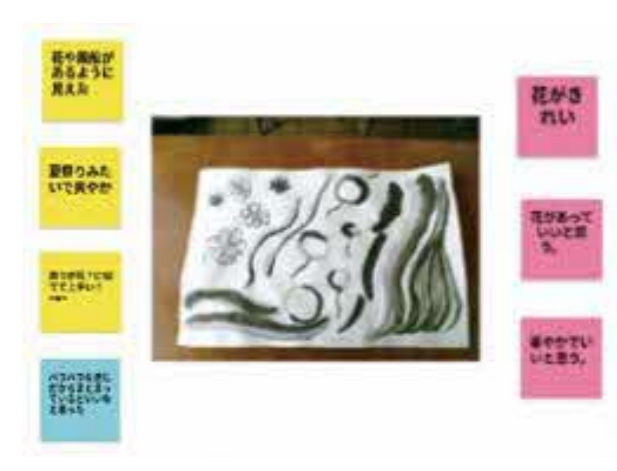
大画面の画像を児童の端末に送ることで詳細まで共有。



前回の図工の授業で書いた墨絵にコメントしあい、友達の作品から学ぶ。



学習用端末を用い、作品を各自で撮影。デジタル化した作品を画面上で友達と共有。



「付箋アプリ」で友達の作品にコメントをする。



小規模校と大規模校が合同で授業することで、多様な意見や考えに触れる。※



ALTが常駐していない学校でも、外国語で表現する機会を増やすことが出来る。※

※出典：遠隔教育システム活用ガイドブック（第3版）

ICT活用による望ましい教育

- 定型的なもの、効率化を図れるものはICTを最大限活用し、対面で、教員にしかできないことに比重を置くことができるようにするといふ。
- 知識を教える講義形式は動画で、分からないところは個別にフォローするなどが考えられる。
- 定期テストはCBT（Computer Based Testing）が導入されれば、より効率化につながる。デジタル化の進展により、便利になるものは使うが、あくまでもリアルな学校を充実させていくためのツールとして使用する。
- リアルでの関わりなしで社会生活を送ることができない。義務教育として、リアルな社会に送り出すことが大切。
- リアルとオンラインを適切に組み合わせて、一人ひとりの学びを保障し、育ちを支える。そのためのICTであり、環境整備である。

ICT活用を充実させる教育環境

- 現状の机は狭い（旧JIS規格）ため、実情に応じた見直しが必要。
- 机にコンセントがあるといふ。
- 大型掲示装置と子供も使えるモニターがあり、**机や椅子が自由に動かせる空間**がいい。
- 教室は**可変性が高く、余白が大きい空間**がいい。
- **教室以外はフリースペースを充実させ、家具で区切ることでどんなスペースにもできるような空間**がいい。
- 今は、職員玄関に会議の予定や来訪者を手書きしているが、デジタルサイネージでどのフロアでも共有できるようになるといい。



オープンスペースを家具やパーティションを兼ねたホワイトボード等で区切り、学びの場を柔軟に生み出す。

出典：2022.2.9 令和3年度 国立教育政策研究所 文教施設研究講演会 長澤悟先生による基調講演資料



スタンディングテーブルを利用することで自由度の高い可変性のある空間とする。

出典：2021.4.26 柳澤委員によるレクチャー資料

ICT活用を前提とした学校施設イメージ

■ 多様な学習活動が展開できる空間



- 教室空間において、紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていく。

■ 高度な学びを誘発する創造的な教室



- 単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく。

■ 柔軟で創造的な学習空間



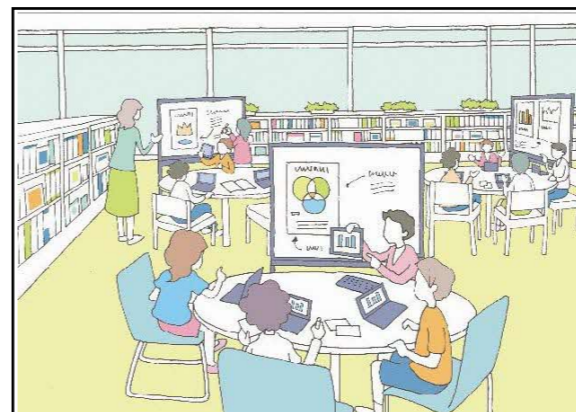
- ICT環境の整備や移動が容易な椅子等の配置により、遠隔・オンライン教育など多様な学習活動が展開される教室環境としていく。

■ 映像編集やオンライン会議のためのスタジオ機能、ラウンジのある執務空間



- 映像編集やオンライン会議のための「スタジオ」、情報交換や休憩がデイル「ラウンジ」など機能性の高い執務空間としていく。

■ 読書・学習・情報のセンターとなる図書館①



- 学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく。

出典：新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

■ 読書・学習・情報のセンターとなる図書館②



- どの教室からも利用しやすいよう学校を中心に図書館を計画し、調べ学習や自主的・自発的な学習が展開されていく。